

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 2月 4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1070400674
法人名	咲願 株式会社
事業所名	グループホーム さがん
所在地	群馬県伊勢崎市富塚町 1159-3 (電話) 0270-31-3588

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町 2-29-5 コミューン100 1-B
訪問調査日	平成 20年 1月 25日

## 【情報提供票より】(20年1月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 4月 1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤専任 3人 常勤兼務 1人 非常勤 6人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	---------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費 10,000円	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000円			

### (4) 利用者の概要(1月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2		2名	
要介護3	4名	要介護4		1名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 77歳	最低	59歳	最高	90歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	松本医院 久保医院 山王医院 共栄歯科
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

天候に応じてではあるが、ほぼ毎日近隣の公園等への散歩や食材等の買物で近隣のスーパーへ出かけ、ホームの中だけで過ごすことなく、日常的に極自然な形で外出支援が充実している。構造的にホールと台所が一体となっている為、食事の準備・下ごしらえ・調理・後片づけ等の一連の動作を職員と一緒にできるような環境が整備されている。比較的自立度の高い人が多く、個別に利用者の力量に応じ、掃除・洗濯物を干す、たたむ・調理等、役割を持って日常的に発揮できる場面づくり等、自立に向けての支援が実践されている。これらは評価に値するものであり、今後も継続されることを期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>・医療関係者への相談=24時間相談が可能な医療機関の検討を(前回評価)⇒訪問看護ステーション等の医療連携体制を今後は考慮して行く。・馴染みの食器の使用=利用者の個別の生活支援のためにも食器等はすべて共有の物ではなく固有の物を(前回評価)⇒職員会議等で検討したが、現在は利用者が自分の役割事として準備をしている為、混乱を避ける為にも当面は現状のまま見守る。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の結果について、職員会議等で話し合っているが、自己評価については、管理者が記載を行い、職員間で話し合う等の取り組みはなされなかった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は1回/3ヶ月程度開催されており、評価結果等を提案し、意見の確認を行っている。又、各委員より出された意見や助言等は記録し、職員会議で話し合い、日々のサービスの向上に活かすように務めている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時や運営推進会議時に意見・要望等を聞く機会とし、運営に反映させている。又、苦情受付担当者(管理者)が明記されており、苦情等について、ホーム以外にも外部機関へ相談できる旨を説明している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事(お祭り)等には積極的に参加している。又、ホームが主催するイベント(さがん祭・見学会)等に地域住民を招き、地元商店の出店・披露の機会となる等、地域との交流や連携が図られている。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者及び家族に安心していただけるよう、又、地域の中でその人らしく暮らすためにも解り易く「地域の認知症高齢者に貢献・・・」等、ホーム独自の理念が掲げられている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を具体化した方針や目標の内容等について、日常的に職員に伝え、話し合いながらケアの場面で実践に取り組んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(お祭り)等には積極的に参加している。又、ホームが主催するイベント(さがん祭・見学会)等に地域住民を招き、地元の商店が出店する等、地域との交流が図られている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果について、職員会議等で話し合っているが、今回の自己評価については、管理者が記載を行い、職員間での話し合い等の取り組みはなされなかった。	○	外部評価の結果については、改善策等の話し合いが行なわれているが、自己評価についても、項目内容の意義を全職員が理解・共有し、より良いサービス提供を目指すためにも、職員全員での取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/3ヵ月程度開催しており、評価結果等を提案し意見の確認を行っている。又、各委員から出された意見や助言等は記録し、職員会議等で話し合い、日々のサービスの向上に活かすように努めている。	<input checked="" type="checkbox"/>	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	実績報告や居宅支援事業等を通して定期的に情報交換を行い、市担当者に気軽に相談ができる等、連携が図られており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ほぼ全員の家族の面会があり、面会時に利用者の日常の様子や職員の状況等を伝えている。又、健康状態の変化については、随時電話にて報告を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議時に意見・要望等を聞く機会とし、運営に反映させている。又、苦情受付担当者(管理者)が明記されており、苦情等ホーム以外にも外部機関へ相談できる旨を説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージ等に配慮し、非常勤職員は働きやすい時間帯や伸々と働ける等、離職を最小限に抑えるよう努めている。今年度職員の離職等は無かった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社会福祉協議会主催や各種研修会等に参加し、研修受講者は職員会議で報告を行い他の職員との共有が図られている。又、日常的にケアの場面で気付いたことを伝えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービスの同業者の見学及び実習生の受け入れ等で質を高め、情報交換の機会の確保や交流を図る等の取り組みが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時には本人と家族に直接見学して頂き、お茶や食事を気軽に頂く等、納得した上での利用となるよう。又、入院中等で見学が不可能な場合は、職員が訪問し家族等と連携を図り、利用者が安心して利用できるよう心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の生活歴や力量等を把握し、掃除・菜園・食事づくり等、職員と共にしている。又、比較的自立度の高い人が多く、食事づくりの場面や買物時等、日常的に利用者から学ぶことが多く、支え合いの関係が構築されている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独自のアセスメント表の活用により希望や意向の把握を行い、可能な限り各自の希望に沿った生活支援が出来るよう、家族との相談・協力を得ながら継続的な支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別のアセスメントを行い、本人・家族等の意向確認を基に職員会議(1回/月開催)等で話し合いの上、利用者 に即した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1回/月開催の職員会議でモニタリングを行い、意見や提案を介護計画の見直しに反映させている。状態変化の際は随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。介護計画の見直しは、1回/6ヶ月程度で行われていた。	○	モニタリングについては1回/月行われてはいるが、定期的な見直し及び現状に即した介護計画の観点から、利用者・家族等に再確認の意味も含め、少なくとも1回/3ヵ月はモニタリングを活かした介護計画の見直しを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関等への通院は職員による支援が行われている。又、居宅支援事業所の併設及び介護予防認知症対応型共同生活介護の指定を受けており、柔軟な支援体制が図られている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時にホームの協力医療機関についての説明を行い、家族等の希望によりかかりつけ医の変更にて1回/週の往診支援が行なわれている。又、歯科等の必要な医療への受診支援も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は契約時にホームの方針(身体的変化＝車椅子使用状態になったら原則退居)等について、家族に説明を行い理解を得ている。	○	共同生活を前提としたホームの方針ではあるが、住み慣れた馴染みの生活の継続等の観点から、重度化や終末期に向けた指針(マニュアル)等について、関係者間での検討を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーに配慮し、個々の人格を尊重しつつ状況を踏まえた上での支援を行っている。又、利用者・家族等の個人情報の保護に努めており、職員や実習生から「個人情報保護」についての誓約書を取り交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し、洗濯物を干す、たたむ・食事づくり等、出来ることは行っていただき、その日の各自のペースを保ちながら過ごせるような働きかけに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物・調理・後片づけ等、一連の動作を職員と一緒にこなしている。又、食事時には職員が同席し、さりげないサポートや会話を楽しみながらの支援が行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきに午前と午後を実施しており、一人ひとりに声を掛け午前・午後・時間帯等、希望を聞きながらタイミングに合わせ、入浴を楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者各自の生活歴や力量等を把握し、掃除・洗濯物たたみ・食事づくり等、日常的に継続できるよう支援している。又、家事や犬の世話等、役割・楽しみごとが見出せるような場面づくりを心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に応じてほぼ毎日近隣の公園へ散歩やスーパーへ買物に行く等、ホームの中だけで過ごさないよう心掛けている。又、季節に応じたお花見や1回/週はドライブを兼ねて神社等へ出かけ、日常的な外出支援が行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることへの弊害を理解しており、玄関は夜間のみ施錠、日中は出入口にセンサーを設置し、施錠しないケアの実践に取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1回/年ホーム独自の避難訓練を実施しているが、消防署への協力要請は行っていない。又、運営推進会議等で地域の人に協力が得られるよう働きかけているが、高齢であったり等、協力体制が得られていると言えない。	○	ホーム独自で1回/年の避難訓練が実施されてはいるが、災害時等の緊急体制への整備の観点から、夜勤帯を想定した避難訓練や消防署の指導による消火訓練等を含め、回数を増やしての訓練実施を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮し献立を作成している。利用者から希望を募っても要望としては出ないが、食材の購入時に確認する等で食事に反映させている。又、食事チェック・水分チェック表の活用により、健康面等に配慮した支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は殆んどホールに居ることが多く、隣室には畳の部屋があり、採光も適度で窓越しに菜園風景が観える等、季節感が味わえる。又、畳部屋で職員と共に洗濯物をたたむ等、居心地よく過ごせるような取り組みがなされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に使い慣れた家具や日用品等、持参してもらうよう働きかけている。各居室には、箆笥・ベット・ハンガー掛け等が持ち込まれており、利用者が安心して過ごせるような工夫がなされていた。		